

令和7年度 中土佐町総合教育会議 会議録

日時 令和7年12月22日（月）午前2時30分～午後4時

場所：中土佐町役場 1階 大会議室②

出席者 （町長部局） 町長 池田洋光 副町長 竹崎 秀樹 総務課長 山崎 正明

総務課 野島 琉花

（教育委員会） 教育長 岡村 光幸 教育次長 津野 誠

次長補佐 梅原 幸司

（教育委員） 濱田 貴代 森下 卓也 高橋 雅人 下村 舞衣子

- 議題
1. 大野見小・中学校の改修工事を含めた今後の方向性について
 2. 上ノ加江小学校の今後の在り方について
 3. その他

（池田町長 開会の挨拶）

（岡村教育長 挨拶）

山崎総務課長

ありがとうございました。

本日、竹崎副町長にも同席をしていただいております。また、記録係として総務課の野島のほうを出席させておりますので、併せてよろしくお願いいいたします。

それでは、議題のほうに入ります。

議題の1つ目となります大野見小中学校の改修工事を含めた今後の方向性について、教育委員会から説明のほうをよろしくお願いいいたします。

○津野教育次長

それでは、私のほうから説明をさせていただきます。

1つ目のお話、小中学校の改修工事を含めた今後の方向性についてということですが、資料はお配りしております資料1というホチキス留めの資料と資料2、こちらが大野見小学校の配置図、資料3が大野見中学校の配置図、資料4が大野見小学校の平面図で、資料5が大野見中学校の平面図、それと、冊子の形になっておりますけれども、中土佐町学校施設長寿命化計画の計画がっております。こちらが議題1の資料になります。

す。

それでは、まず今回なぜこの大野見小中学校の改修工事を含めた今後の方向性についてを議題にしたかというところですが、このあと説明させていただきます長寿命化計画の中で大野見小中学校の改修を令和9年度から11年度で計画をしております。しかしながら、資料1にもありますように、改修をしようとする令和9年度から令和11年度で大野見中学校の生徒数が10人未満になるということもありまして、現状を説明させていただきたいと思ひまして、議題1としたところです。

それでは、まずこの長寿命化計画について簡単に説明をさせていただきますと思ひます。長寿命化計画につきましては、令和2年3月に策定をしております。この学校施設長寿命化計画の上位計画があるんですけれども、中土佐町の公共施設の状況を示しました中土佐町公共施設等総合管理計画という計画がございます。この計画の中に、公共施設の適正管理に関する基本的な考え方ですとか施設の削減目標というのが定められておりまして、その計画の中の削減目標としまして、持続可能な公共施設、公共施設マネジメントを推進するための指標として、計画期間の最終年度である2030年における施設総量の削減目標を現状の施設総量のうち9.7%程度を削減するという設定がされています。この設定を踏まえまして、学校施設長寿命化計画の方も策定をしております。

この計画の29ページをご覧いただきたいんですけれども、29ページに学校施設の規模、配置計画等の更新というところがあると思ひます。先ほどの公共施設等総合管理計画の削減目標を踏まえまして、学校施設長寿命化計画のほうでは、オレンジのところなんですけれども、原則新規整備は行わず、施設配置、施設規模の適正化を図りますという方針にしております。なぜこのような方針になったかといいますと、方針の下の文章のところなんですけれども、本町における年少人口、0歳から15歳未満の人口は1980年の年少人口2,221人を100%とした場合、2020年度時点では約546人、約75%減少、1,675人の減少となり、おおむね30年後である2045年には227人、約90%減少、1,994人の減少と推計をされています。少子化による児童数の減少の傾向は本町も例外ではなく、一定規模の学校集団による教育効果を確保する観点から、統廃合に向けた学校等の適正規模の確保や適正配置が喫緊の課題だとなっております。

厳しい財政状況の中、学校の新規整備による適正規模、適正配置の事業推進は困難であり、学校等と地域のつながりを維持するために、下記の方針にて事業を推進しますということで、先ほど申し上げました原則新規整

備を行わず、施設配置、施設規模の適正を図るということにしております。まずこれを念頭において、長寿命化計画を策定しております。

続いて、長寿命化計画の31ページをお願いします。31ページの中ほどの図ですけれども、従来型の整備周期、周期イメージという図があると思いますけれども、冒頭、町長のご挨拶にもありましたように、大野見小中学校の校舎は鉄筋コンクリート造ということになっております。鉄筋コンクリートはコンクリートが劣化をするため、耐用年数は通常40年程度とされています。これまでは、例えば40年を経過すると、取り壊して新しい建物を建てるというのがこの従来型の整備周期ということになりますけれども、例えば構造躯体、コンクリートの健全性について評価を行い、まだ使用できるという建物については長寿命化改修を行うということにしています。

それを示したのが、次の32ページになります。32ページの長寿命化型の整備周期ということで、40年経過した段階で構造躯体の評価がよいとされたものは、構造躯体をそのまま使い、長寿命化改修を行い、改修後40年程度使用するというのが長寿命化型の整備周期ということになります。これを用いたのが久礼小学校の長寿命化改修ということになります。

そうしたら、全ての建物が長寿命化改修ができるのかということですが、全てもできるものではなくて、一定の基準がありまして、計画の22ページをお願いします。22ページのほうに、①で構造躯体の健全性の評価フローというところがあると思います。例えば、耐震安全性の判定ということで、建物のI s 値というものがあるんですけども、I s 値が0.7以上でないと長寿命化改修はできないですとか、②の圧縮強度の判定ですとか、鉄筋の腐食確率が50%未満であるとか、こういった基準をクリアしないと長寿命化改修ができないということになっています。久礼小学校についてはこれらの基準を全部満たしておりましたので、長寿命化改修を実施したということになっています。

先ほど申し上げましたI s 値というのは構造、建物の構造耐震指標のことを言いまして、地震力に対する建物の強度等を計算した数字ということになります。

続いて、35ページをお願いします。35ページのほうに長寿命化の実施計画を載せております。先ほど言いましたように、大野見小中学校につきましては2027年から2029年ですので、令和9年から令和11年度にかけて改修を計画しているという状況になっております。

続いて、資料1のほうをお願いします。ホチキス留めの資料1ですけれ

ども、まず、大野見小学校の校舎につきましては昭和60年3月の建築ということで、建築後40年が経過しています。続いて、大野見中学校の校舎につきましては昭和58年3月の建築ですので、築42年が経過しているという状況になっています。

資料1の②から④までが保育の園児数、小中学校の児童生徒数を表した表になっております。現状の保育園児数を基に、令和8年度以降の大野見小学校の児童数と大野見中学校の生徒数を記載しています。④の大野見中学校の生徒数ですけれども、8年度以降につきましては、8年度が12人、改修を計画している令和9年度が9人、10年度が8人、11年度が8人というような状況になっています。

これらの③、④の児童生徒数を基に、必要教室数を表したのが⑤の表になっています。小学校は完全複式になると思われますので、1年生と2年生で一教室、3年生と4年生で一教室、5、6年生で一教室の普通教室が3つと、あと、特別支援学級が二学級必要だとしたら、大野見小学校で普通教室が5教室で、中学校につきましては複式がありませんので、それぞれ1、2、3の学年で普通教室が3つと、特別支援教室が二教室必要だったとして、合計で5教室。小中学校合わせまして、教室が10教室必要であるということになります。

⑥が普通教室以外の必要な特別教室ですね。例えば、図書室でありますとか美術室、音楽室、図工室、理科室、イングリッシュルームなどが特別教室になります。この特別教室は、現状はそれぞれ小学校にも図書室があり、中学校にも図書室があるというような状況になっていますけれども、例えば、それぞれある特別教室、それと、⑦に示しています職員室などは1つにまとめることができるのではないかというふうに考えられます。これをまとめることで、適正な施設規模の推進につながっていくのではないかというふうに現状では考えています。

児童生徒数、先ほど説明しましたけれども、それを基に示しました必要教室数が10教室ということですがけれども、例えば、児童生徒数が少なくなったとしても、この必要教室を現状の校舎の1棟にまとめることは少し難しいかなというふうに考えております。例えば、現在のどちらかの校舎に普通教室の10教室をまとめる、そういったことはできるかもしれません。そして、特別教室を小中学校で同じ教室を使用するということが考えられます。今後は改修工事の検討委員会的なものが必要なのか、あるいは学校運営協議会等に意見を諮るのかという方法が考えられると思いますけれども、皆さんの意見を踏まえまして、今後、長寿命化改修工事の基本計

画等から策定していくことになるかと考えています。

資料1の2枚目ですけれども、参考に久礼小学校長寿命化改修工事の実績を載せております。久礼小学校の長寿命化改修工事の建設工事費だけで言いますと、校舎棟で7億8,116万5,000円。全て、体育館ですとか、設計ですとか、いろいろ備品などを含めると、先ほど冒頭町長が申しあげました10億近い金額かかっておりますけれども、校舎棟の建築工事だけでいきますと7億8,116万5,000円ということになっております。この校舎棟の金額を久礼小学校の面積の4,588平米で単純に割ると、1平米当たり約17万円ということになります。これを単純に大野見小中学校の現状の面積に掛けると、約5億5,000万ということになりますけれども、これは改修内容等も決まっておりませんので、あくまでも参考数値ということでお聞きいただきたいと思います。

資料2から5につきましては、配置図と小学校、中学校の平面図ということになりますので、参考にご覧をいただきたいと思います。

1番の議題説明については、以上です。

○山崎総務課長 ありがとうございます。

教育委員会から、大野見小中学校の今後の方向性についてということ、長寿命化計画と児童数の変遷等の説明に併せ、小中一貫校のことについても触れたのかなとは思っております。これを踏まえまして、何か聞きたいこと、ございませんでしょうか。

○下村委員 もともと長寿命化を図るという前提のところ、健全性の評価フローというのがあると思うんですが、これは第三者を入れて機械的に計画したものなんでしょうか？

○津野次長 この計画をつくったときに、コンサル会社に委託をしてこの計画をつくっていますので、そのコンサル会社のほうに判定してもらってこの計画を。

○山崎総務課長 資格がある人。

○津野教育次長 はい、そうです、建築士。

○山崎総務課長 よろしいでしょうか。

○下村委員 はい。

○森下委員 久礼小学校の耐久性の金額が載っていますけれども、この立地の関係状況、海岸に近いとか、山林の大野見というたら、どっちが長所を生かしやすいという疑問。

○津野次長 どうでしょうね。海岸なので。

○山崎総務課長 今のコンクリートなので。昔はすごく劣化しよったがですけれども、そ

れほど見た感じ、目に見えて思わんです。

○池田町長

ただ、耐震補強をやる時に耐力テストで一部抜いて、見ておるんです。ただ、その昭和38年に建築したこの前の久礼中学校は、もうぱっといったら、ばらばらとなる。海砂を使うちょっとたり、やっぱり鉄筋が腐食をしたりとか、それから、そもそも、こんな言い方悪いけど、昔のことやきね、その通りやっていなかったかもしれない。びっくりするほど弱かった。壊すとき簡単やと。

そんなことはあるけれども、今の昭和55年過ぎた後の新耐震になってからは、この久礼小もそうですし、大野見小中もそうやけど、それは大丈夫やと。やっぱり鉄筋。

○山崎総務課長

54年。

○池田町長

54年と5年。

○山崎総務課長

旧耐震が混ざっちゅう。

○池田町長

混ざっちゅう。北舎、南舎があって、そういうときにやっちゅうけれども、ちょうどその頃のやつは、大体もうちょっとまともにやっちゅうというか。それと、やっぱりコンクリートの質とか、それから、クラックがいつちよったら、雨水がしみ込みよる。それから、どうしても水害があるので、そこを同じスペックで造られちよったら、それは大野見のほうがいいと思います。これは私の素人の話しよるのですが、大体一般的にはそういう傾向ではないかと思えます。

○山崎総務課長

よろしいですか。高橋さん、地元ですけれども。

○高橋委員

私はすごく個人的な意見も踏まえて話をさせていただきます。この大野見小学校、一番最初できたときに、ちょうど私が小学校5年で南小学校が閉校になって、新しくこの校舎ができて、一番最初の卒業生なんですよね。その当時、6年生28名おりました。それから40年たって、まさか自分がこんなところ、こんなところって失礼やね、こういう場でお話ができるようになるとは思いませんかったのが事実です。

長寿命化の計画の前に、今、実は保護者の方だとかそこらあたりから意見がちょこちょこ出てくるのが、大野見小中学校閉校して、もっとこっこの久礼のほうに行かないかなるがじゃないのかという心配をされよる方々もおるんですよね。けど、私ら個人からしてみたら、町長と全く同じ意見なんですよ。大野見の人間ですんで、大野見は北から南まで非常に幅広く地域がございますので、通ってくるがということは到底できないと思うがですけれども、ただ、私が前来て、そんなことないなんて言うたがです、これはこれで問題かなと思うので、まずやっぱり住民の皆さんにこ

れをやるということがあればですよ、目的だとか趣旨ということの説明した上でやると、非常に将来的なことも見越して柔軟的な意見も出てくるんじゃないかなという思いがあります。

何かそこをやっぱり説明せずに、先に長寿命化と言ったら、当然安心されると思いますよ。あの地域住民からしてみたら、閉校とかそういったところはないがやなというところはあるがと思うけれども、まずそこが大事やないかなというところも私の中であります。特に、上ノ加江小学校が今、閉校の問題が出てきておるので、次はうちじゃないのかというところが切実なところでもありますので。

○池田町長

今日は町長の招集の会なので。

○高橋委員

ああ、分かりました。

○池田町長

ふだんは委員会局長を筆頭に、委員の皆さんも、それでいつも会話をされていると思うんですよ。そういった意味で、今日は私のほうからいろいろ意見を述べさせていただきたいと思いますけれども、確かに住民の皆さんはそういった不安点があろうと思いますが、じゃ、お隣の旧の窪川町、志和なんかも早くからもう休校になったので、もうマンモス中学校をつくってしまったので、昭和の時代の終わりに、はやそういうことになって、それは何でできたかと言うたら、寮なわけよ。寮、寄宿するわけ。大野見も寄宿という手を使えば、できんことはない。けど、それは、私はあんまり現実的でないのかなと。

やっぱり地域から学校がなくなるというのは本当に大きな、住民にとってはいろんな意味で厳しい状況になります。ですから、できたら置きたい。けれども、通学どうするか。これはさっきも言うたように、まずスクールバスじゃ、絶対無理です。なので、いろんな形をこれからも使わないといかんと思うんですが、通学って、久礼へ来た場合ですよ。これは無理なんだ。大野見でやっぱり、これを見ていただいて分かるように、上ノ加江があっても、子供がおらんったんですよ。ところが、大野見はそこまで、減ったけれども、そこまで厳しくはないです。ということは、まだまだ大野見単独で、一貫校をつくれれば運営はできると思います。

それと、やっぱり、これは私ごとで恐縮でありますけれども、ようこそ先輩という授業があって、11月に学校へ行っているいろんなことをぺらぺらしゃべって、子供たちと給食食べて楽しく過ごして、その感想文とか、それから、いろんな写真をファイルにしたのももらったんですが、感激してうるっとなりましたが、やっぱりすごく地域愛というものがあるなど。これは、上ノ加江も一緒なんですよ。それで、やっぱり子供がこんなに地域

を大切にしよう、その気持ちはやっぱり大事にしなきゃならんし、子供たちの希望もかなえてやらないかんじゃないかなとか、そういった意味で中高一貫校という構想を持って、住民の皆さんに対する説明は当然行わなきゃなりません、行政懇談会も大野見のいつも北は北、中央、南とやっていますから。毎年大体、基本的にはやっています。一時、コロナでやらなかったときがありますけれども、そういった場所とか地区長会とか、いろいろ機会を踏まえながら、やっぱり住民の皆さんには丁寧にご説明しなきゃならんというふうには思いますので、また高橋委員もそういうところで、いろんなところでも、こんなことらしいぜということはやっぱりいやしくも教育委員さんでありますので、それは当然発言して、私は結構だと思えます。

○高橋委員

当然のことながら、大野見は直近でどうのこうのいうことはないということは、私たちもそういう意見、考えではおるんですけども、やっぱり将来的にはそういうところも考えないかんところなのかなという、不安になっちゅうところがあるんですよ。今回、長寿命化になったら、今度、災害に対しても手を打てることになるし、住民にとっても安心安全につながる要素にもなるがと思うので、ぜひ向こう巻き込んでやれたらいいかなというところですね。

○池田町長

その災害の話が出ましたので、もう一つつけ加えさせていただいたら、大野見に給食センターを造りました。随分とご批判がありました、それは議会から。何で人口の多い久礼にないんやと、造らんと、大野見に造るがぞという話。けれども、ここ全部海ありますよと。海があったときに、給食センターを高台やないといかんじゃないですか。じゃ、今の小学校の敷地内、中学校の敷地内、できますかと。スペースがないんですよ。

それと、もう一つ問題は、いわゆるアクセス道の問題です。直後は本当にまず道路啓開といって、がれきの撤去です。通れるようにしなきゃならんので、それが町道はなかなか時間がかかります。県道もかかります。一番先に開通するのが国道、そして、この四国横断自動車道の主線道ですよ。これは先にできます。しかし、この四国横断についても新莊川の問題、あそこのところで角谷トンネルがありますけれども、トンネルも200メートルほどはがれきが落ち込むんですよ、低い。その問題があるし、あと、大野地区ですよ。下の国道へ入ったら、高架になっていますよね。だから、追い抜く、下ってくる高速、あそこも危ない。しばらく、だから、高速もそういうところもあるので、大野見であればまず全く津波の影響がないですよ。あそこのアクセス道路については、当然、県道41号も

あるし、それから、遠回りにはなるけれども、ずっと。19号で窪川へ出る。そして、東又から矢井賀のほうへ出るとか、そっちもいかんけど、上ノ加江へ下りる道もあります。それと、あと、197もありますし、いろんなことを使えば、大野見であれば、まず食べるものはできると。食料もあるところもあると。非常時は、やっぱりそれはもう皆さんにご協力いただかなきゃいかんと思いますけれども、それと、もう一つは、あそこをあえてオール電化にせんかったんですよ。というのは、電源喪失をした場合にいかんので、ガスで煮炊きができるようにということで、併用型になっています。それも、被災というものを考えた上でやっていますので、先ほども言いましたけれども、やっぱり津波に関して言うたら、うちの町で考えると、大野見に頼らざるを得ない。それはもう間違いないので、そういった意味で大野見が1つのとりでにならなきゃいかんと思いますので、学校もそういうことも踏まえて検討しないといかんと思います。

あと、これは私の個人的な意見ですよ、あくまでも。町としてというよりは、もし今のRCの3階建てをそれぞれ似たのを造ったと、面積も割と似通っちゃいます。ちょっと小学校が広い。例えば、どっちかへこじめるという話があるんやったら、増築をするしかないと思います。どっちかを使う場合に、増築。スペースが絶対ないかというわけでもないのに、それも案の1つに入れて、それから、すみ分けをしながら今の校舎をうまく使うということもあると思うので、まずは子供たちが健全な教育を受けられる、その仕組みをしっかりと担保するというのが私は最も重要であろうと思いますので、そういうふうなのについてはまたPTAの皆さんも当然ですが、地域の皆さんが非常に不安になっておられる方もおいでるだろうし、それからまた、今、割と田舎に住みたいという、地域おこし協力隊員も含めて結構おいでますので、やっぱりコロナ禍によってライフスタイルそのものが変わってきたとか、それから、自分の人生観も変わってきたいうところたくさん見るので、都会一辺倒でない、そういう時代にもなっていますので、うまくこの大野見の地域特性、自然であり、人間、人情でありとか、そこにしっかりとした指導者がいて、教育を受けられるということであれば、これはまた全然違ってくると思うので、ぜひそういうふうになればなと思います。

○山崎総務課長 非常に前向きな意見やと思いますので、地域のほうは、まだこれから先。

○高橋委員 ああ、それは当然。

○山崎総務課長 手続踏まんといかんけれども、町長の中ではそういう思いがあるという

ことですので。

○高橋委員 共感しているところは当然ありますので、全然、言葉悪いけれども、けちをつけるとか、そんなのじゃないですよ、全く。もう進めないかんことやと思いますけれども。

○山崎総務課長 貴代先生、何かございませんか。

○濱田委員 私も始めて、本当、大野見知らなかったがですけども、教育委員になって視察とか学校訪問とかで行って、子んなに奥があったがやみたいな感じで、もう回ったときにびっくりしたんですけども、また久礼とは違う、上ノ加江とは違ういいもの、いいところだないうふうにも感じました。人口が減っていくというのは本当にもう何とも言えん問題であれ、課題である中で、小中一貫に大野見として進めていく中で、ちょっとぶっ飛んだ話かも分からんけど、大野見の子供だけで集まるがやないです。山村留学とか、何かほかの地域から呼ぶというふうな、長期で留学してもらいうことは無理かも分からんけど、ちょっと大野見の学校を体験してもらおうとか、そんな何か非常に難しいこととは思いますが、やっぱり外の子供が入ってきて、大野見の子供と一緒にいろいろ体験するというのはすごく子供にとっても、いいことばかりではないかも分からんけれども、やっぱり学ぶ点も大きいと思うがです。

私、保育園で仕事をしゆうときに、子供にセカンドステップで意見を言わすいうがをずっとやってきました。4歳児はただ手挙げて、同じことばかり言うがです。物の取り合いしたときは、こんなときはどうしたらいいかというふうに問題提起を子供にして、いろいろ子供に言わせるシステムでしたけれども、5歳児になったら、全然違うがです。5歳児の子供は、ほかの子供が言いよる意見も聞いて、それにプラスして言えるようになるがです。だから、やっぱり5人子供が意見を言うよりも、10人の意見を聞いて言えるというのはすごく子供にとって、大人が考えんようなことを子供が、うん、うんと言いながら、5歳児でもそんなふうな、ほかの子供の意見も聞いて発表ができるので、やっぱりいろんな意見を聞く、いろんな人と触れ合うというのはすごく大事なことなので、少子化はしょうがない言うたらあれですけども、そこで何か外の力を、何かそういう方向をやっぱりね。

○山崎総務課長 そこでいいキーワードが。

○濱田委員 ぶっ飛んだ話ですけども。

○山崎総務課長 山村留学いうことで、先日、僕と副町長が岡山県的美咲町の旭小中学校というところを視察に行ってきて、来年度から、それこそ他地域からも受

入れをしようというような取組を始めると言っていました。それを踏まえて、副町長が今から。

○竹崎副町長

美咲町のほうへ行ってきまして、義務教育学校ですね、小中一貫の。さっき総務課長のほうからも言いましたけれども、来年度から校区外からもということでしたのが、その中で、先行している高知の土佐山学舎を参考にして、だいぶ意見交換とかもしている部分があるというふうに言っていました。実は私の息子も、私、一宮のほうなんですけれども、高知市の、そこからバスで、バス停まで行って、土佐山学舎のほうまで6年間ずっと通いまして、一番、開校したときに募集してましたので、そこへ行かせてもらいました。環境がいいというのは、私の息子が割と大勢の中でみんなとうまくやっていくというのが割と苦手な子供でしたので、少ないなら少ないなりに、そこでええ環境で学ぶことができたというのがありましたし、それと、地域との触れ合いをすごく取り入れた学校でしたので、多分美咲町のほうもそこら辺のところをやっていくんだなというふうに思いながら聞いたところでした。

さっきのお話に戻ると、大野見の区域内だけでやるのではなくて、確かに例えば久礼から、あるいはほかの市町からということで募集をされる、やるというのは、すごい有意義、地域にとっても子供たちにとっても有意義なことではないかというふうに感じているところです。

○山崎総務課長

そこで、教育委員、執行部側と意見を聞いて、教育長から締めの、この議題についての。

○岡村教育長

実は、区域外就学については現在も行っております。大野見も須崎から来ている子もおるし、久礼にもおる。それはそれでいいと思うんです。これからもそれは続けていこうかなとは思っているんですが、かつて上中がなくなるというか閉校、休校になるときに、同じような、実は提案したことがあるんです。バスを出して、小規模校がいいという親の意見があったので、バスを出して、上ノ加江、久礼は10分、ここから20分ぐらい。バスを大野見小中へ出すこともできんことはないよという話したけれども、何か何となく賛同を得られなかったというか、そんなこともありました。ただ、校区外から来るということは受け入れてますし、それはずっとやっていったらいいと思います。

ちょっと明るいニュースというか、今、町が移住体験の。

○竹崎副町長

おためし体験住宅ですね。

○岡村教育長

実は、それ最近2件問合せがあって、子連れの、子連れって変ですね、家族のある、小中学生のいる家庭から2件問合せがあって、実際、来年の

1月。

○津野次長

1月の末ぐらい。

○岡村教育長

子供連れて移住体験する。そのときに、子供も連れて久礼小の体験入学をしたいという。それが、1つは県の外から、もう一つは外国、そういう問合せがあって。やっぱり移住、ああいう制度というか、結構ホームページ見ている人がいるんですよ。だから、どんどんああいう発信をしていく。これは町のほうの発信で、こっちは助かっているんですけども、そういうことも積極的にやっていったほうがいいのかなど。議会であまり問題がなかったけれども、そういう本町に籍がない子供もタブレットは全部無料で使わせている。そこまで、本来だったら通信料とか取らんといかんですけれども、セットになった、今、タブレットを町内の子供と同じように使わせているという。そこはほかの市町村にない良いところかなとは思いますが。そういう宣伝というのは、大事かなと思います。

それから、大野見にはない、今のところ宿泊施設という、体験できる場所がないので、移住体験。

○濱田委員

里親をつくらないかん。

○岡村教育長

ここ何年か、自分の生徒、卒業生の、若い者も帰ってきてくれているので、ちょっと望みがあるのかなとは。

○山崎総務課長

ありがとうございます。時間がはや1時間経過してきたので、この議題の、町長、総括的な一言があるようでしたら。

○池田町長

1番の。

○山崎総務課長

そうですね。

○池田町長

やっぱり先ほど私も申し上げましたが、いろんなアプローチがあるので、それをしっかりと保護者、そして住民の皆さんとお話をしながら、委員会がこの中心にもなってずっと進めていただきたいなというふうに思います。

また、それこそ次の我々の改選の問題なんですけど、もう皆さんご案内のとおり大野見地区から6人の方が手を挙げています。これは、どんなに考えても人口から割ったら、有権者数で割ったら、それは大野見で6人通るわけではないんです。ないけれども、やっぱり現在12名の議員さん、お二人がもうご勇退ですので、10人の現職、それに新人が今のところ4人が手を挙げていますので、2人落ちの構図ですね、というようになるんですけど、大野見の地域から6人の方が次の議席を目指すというふうになると、これまでない大きな議論が巻き起こるんじゃないかなというふうに思いますので、当落は別として、議員選を通じてやっぱり今後の大野見をどうするの

かというときに、子供たちにとっても必ず関係するので、ぜひそういった議会でのご意見、そういうものもまた委員会のほうでもしっかりと皆さんの意見も聞いておいてほしいなという気がします。

○山崎総務課長 ありがとうございました。

それでは、一旦議題1についてはここで終了させていただきまして、議題の2のほうに入ってまいります。

上ノ加江小学校の今後の在り方について、委員会より説明のほうをよろしくお願いいたします。

○津野教育次長 資料はホチキス留めのもの、上ノ加江小学校児童数の見込みと書いた資料になります。

1枚目の上段が現状ですね。次年度以降、入学生がなかった場合の児童数の推移ということになります。現状が、令和7年度が3年生が5名、4年生も5名、5、6年生が3名ずつの計16名ということになります。令和8年度についてはもともと新1年生がいない年でしたので、今年の6年生3名が卒業したとすると13名、上ノ加江小学校の児童数が13名ということになります。以降、6年生が卒業していくと、9年度では5、6年生のみで10名、10年度は6年生のみで5名という児童数になります。

下の表は、現在、住所が上ノ加江の方で久礼保育に行っている方が各学年2人ずつ、実際いらっしゃいますので、その園児が仮に上ノ加江小学校に入学したとした場合の児童数を書いております。

2枚目の資料は、11月17日、18日に現在の3、4年生の保護者の方を対象に、教育長と自分のほうで各ご家庭に面談を行いました。どういう内容を聞き取りしたかといいますと、1つ目が当面、令和10年度までは現状のままがよいと考えるのか、2つ目が久礼小学校との統合がよいと考えるのか、3つ目がどちらとも決めていない、この内容について面談をさせていただきまして、現在の3、4年生のご家庭は9家庭ございますので、意見数としましては、当面現状のままがよいと考えると答えた家庭が4家庭、2つ目の久礼小学校との統合がよいと考えると答えたご家庭が1家庭、面談の状況では迷われていると回答されたご家庭が4家庭ということになっておりました。

下の自由記述については、そのときの意見をこちらで、教育委員会サイドでまとめたものとなりますので、またお読み取りをいただきたいと思っております。

教育長のほうから補足がありますか。

○岡村教育長 それで、その結果を受けて、3、4年生の保護者、その前に全体の保護

者に対して、令和8年度までは存続するということを決めていましたので、そのとき全部の保護者が来ている中で、今後の上小の在り方については今の3、4年生の保護者を中心にやっていいかということをお諮りして、了解ということを得たので、3、4年生の保護者と話し合いを行いました。そのときの意見で一番多かったのは、保護者が決めたりするのは難しいので、教育委員会で決めてくれんかという意見、それから、教育委員会が提案してくれという意見がありましたので、この表を見ながら、教育委員会としては令和9年度に5名、5名、5年生、6年生が5人、5人になります。5人、5人というのは10人という結構な数なので、この5人、5人になったときに、久礼小へ。そうすると、10人ということが久礼小へ行くようになるので、今その10人という人数が決して少数、本当に少人数の小さい学校のような少数派ではないので、そうしたら、学年は違うけれども、友達もいるので行きやすいんじゃないかということで提案をしました。

その保護者との話し合いでは、おおむねそれが一番いいかもしれんねということで話し合いが終わったんですが、そのときに、小学生にも説明をしてあげてくださいという話が出ましたので、先週の金曜日に私と次長と補佐で3人で、全校集会というのを開いてくれたので、小学校の1時間単位で、パワーポイントを使って説明して、5年生とか6年生は一部理解してくれる生徒もいましたが、3年生、4年生には話の中身が難しいと。要するに、統合の話は僕らには難しいみたいな意見が多かったですね。気持ちとしては、せっかく上ノ加江小学校へ入学したので、上ノ加江小学校を出たい、卒業したいという意見は大半でした。

それを受けて、今週の金曜日、夜間ですけれども、もう一回保護者会でその結果を報告して、また意見をもらうようになっております。今は県教委のほうには連絡をして、12月の中旬に結論を出すという方向でしたが、若干1月にずれますという話はして、了解はもらっています。現状、そういう状況です。以上です。

○山崎総務課長 ありがとうございます。

説明を聞いて、ご意見何かございませんでしょうか。森下さん、地元になるがですけれども、どうでしょうか。

○森下委員 そうですね。僕も、児童数が減るというのはもう、増える見込みがもうどうしてもないというのが正直なところだと思います。企業が来れば、それは人口が増えるとかということはまだ考えられないので、また、保育園も当然、久礼のほうへ行っていますので、最初、町長が言われたよう

に、卒園したら、やっぱり友達がおる久礼小へ流れていくというのはもう普通やと思います。

自分も放課後子ども教室の支援員をさせてもらっている関係もありますけれども、自分の肌感覚で言うたら、保護者との交流もあります、お酒飲んだり、そういった交流もあるんですけども、どうしても残してほしいと、ここやないといかんという声はまず聞かれないというのがありますね。それと、今3年生からしたら、1年、2年がないんですけども、やっぱり3年生からしたら、その下の子がない。だから、かわいがっちゃう後輩がおらんというの、もういつまでたっても下ばかりというのは、親からしたらちょっとかわいそうかなという声も聞いたりもします。

○山崎総務課長 非常に現場の意見で。

○森下委員 子供にとって、集団学習がいいのか、少人数がいいのかというのは、どっちが、ちょっとはつきり分からんですけれども、今、次長さんが言われたように集団で意見聞いて、大人数の意見聞いて学ぶところが、やっぱり刺激もあるしみたいところはあるかなと、集団のほうがねと思ったりするんですけども。

○山崎総務課長 ありがとうございます。

○濱田委員 どちらにしても長短はあるきね、少人数、大人数、どちらも。

○森下委員 ごめんなさい、それと、保護者ではないですけども、地域の人も一部交流はあるんですけども、どうしても上小も続けないかんという、そういう声も僕は聞いたことはないです。残しておいてもらわんと困るとか、ただ、保育、これは教育長にもちらっと聞いたんですけども、保育も統合になった。上中がないなるときも、町としても住民のほうにお知らせをいろいろされたとは思いますが、やっぱり一部の人が、やっぱり町民、それから住民に話がいかずそのままやってみたいな、そういう話も聞いたりもするがですよ。そういうことがまずないと思いますけれども、広報の何かでそういうのはされちゃうと思いますけれども。もし統合になりよったら、その段取りというか、その辺の啓発のほう、お知らせもしっかりやってもらったら。

○池田町長 当然のことですね。やっぱりどうしても後出しじゃんけんでそんなことを言う人もおります。知らんらあいうことあり得ないし、委員会もずっとやっている。私が町長になってから、もともと9つの小中学校がありました。3中6小にする。一番先に統合になったのが北小、そして矢井賀小、それから、笹小。それも、北小ははっきり言うて、もう委員会主導で、ばんとやった、もう統合やとやった、大野見、北。けれども、それは1つの

伏線があって、はっきり言うて保護者の中にもともと地元の業者というか事業所、もう今やまっちゅうけんど、大体分かると思うんです。その関係の人がおって、もうやっぱり人数が多いところでやりたいと。ただし、学校を休校じゃいうことは、自分は口が裂けても言えんと。地域の人が存続を望んじゅうて、その辺は何だかんだあったがですよ。あったけれども、それは教育長の性格的なものもあって、確かにいろいろあったけれども、結論としては、寂しいというのはあるけれども、子供、やっぱり生徒ファースト、子供、児童を生徒ファーストで、どこにスポットを当てるかということで、我々の行政の責務は子供の健全育成ですきよね。寂しくなったというのは、それは当たり前の話で、けれども、そういうことがありました。

矢井賀についてはいろいろありますけれども、これはもう激減したんで、これはもう仕方がないねと周りが皆言うと思った。最後の笹小はある保護者が、1人になっても、うちは置いとかないかんということでありましたが、ご案内のとおりで笹場というところはまとまりがあるので、やまっても地区民運動会でずっと続いてきた。もう外へ出た若い人たちが帰ってきて、運動会ずっとやってきたんです。今はちょっとなくなってくるのは、やっぱり時代の流れです。

ですから、上のほうのこととか、上中のこととかでそうやって言われる人がおります。そういうこと、私もよく分かっています。けれども、絶対そんなことないので。しかも、上ノ加江出身の議員さんもおるじゃないですか。一番先にその議員さんに地区の人言うているのでね。議会ですぐ大問題になります。ただ、結果としてそういうことは、どんなことをやっても必ず出ます、これに限らず。しかし、やっぱりそういうことも出ちゅうという現実もありますので、そこはしかるべく我々もそのご意見には耳を傾けながら、丁寧な説明をこれからもしていくということには変わりはありませんので、そこはまた森下委員にもよろしくお願ひしたいと思ひます。

○山崎総務課長 ありがとうございます。

ほかにございませんでしょうか。

○下村委員 この面談の結果の意見とかから見ても、やっぱりかいま見えるのは、子供が不安を抱えているということだと思ひます。新しい環境に行ってなじめるかどうかということですごく不安にしているから、行きたくないとか、考えたくないなというところもあると思ひますけれども、今、半期に1回の交流事業とかしか学校では行っていないと思ひます。その中

で、相手の名前も分からないとか、大きな学校に行ったら全員の名前なんて全然知らない中で、1人ぼつっつというように感じて交流しなきゃいけない。もっと体験授業、普通の授業とかを1週間一緒にしてみるとか、半日とか1時間、一緒に給食を食べるだけとかじゃなくて、本当に算数の授業や国語の授業、普通の授業と一緒にしてみて、周りのみんながどういう話し合いをしているのかとか、そういう体験を通じて子供が新しい環境はこういうふうじゃないかなというのをまず知るような場面をつくってあげるのもいいんじゃないかなと。もし3年生、4年生を緩やかに統合していくと考えるんだったら、そういう機会も必要じゃないかなとは思いますが。

○山崎総務課長

それを踏まえて、教育長。

○岡村教育長

ちょうど子供に説明した日とその体験の日やった、子供らはまず最初、自分のほうから今日はどうやったと言ったら、楽しかったとか、すごい意見が出たので、やったと思ったんですけども、何か最後感想とか、何か言いたいことありますかと聞いたら、やっぱり上小がいいみたいな意見はありました。それは、幾つかの、こっちの分析で、間違うちゅうかもしれんけれども、少人数だと、5人ずつですよ。1人が言い出すと、それに対して、いや、そんなことない、僕は行きたいみたいなのが言いにくい雰囲気があると思います。子供たちが、これは私とその前に少人数とか複式のいいところ、メリット、こんなところがいいよねと先に説明したんですね。そうしたら、子供らも正直に、上ノ加江小学校の人数少ないけれども、いいところがあることも分かったみたいな、そういう意見もあって、だから、上ノ加江に行きたいとか。不安は確かにいっぱいありました、子供たち。そこは解消していく方向で、何らかのというか、一番いいのは子供同士の交流、すつといわゆる仲ようになります。町別の交流なんかもやっていますけれども、もう久礼、上ノ加江、大野見がこの部屋に集まって準備するんですけども、すぐ仲よくなる。今年行っちゃった子供も、5、6年生2人おって、聞いたら、すごく楽しかったと、そんなことも言ってくれて、話の雰囲気はすごくよかったです。だから、子供たちは一緒に、同じ場に集まったら、すぐに仲よくなれるという、それはあると思います。それを増やしていくということも、不安の解消につながるのかなというふうには。保護者の要望も、それが一番多かった。もっと交流を増やしてください。もし統合になれば、もっと増やしてくださいという要望はたくさんいただきました。

○池田町長

それと、やっぱり家庭によっては、いわゆる中学生がおって、小学生がおるみたいな家庭はもっと分かりやすい。なぜかという、久礼中は上中

へ行くやったのが、久礼中と。そのまま久礼へ、わっと人数が多くて、その中に埋没してしまうんかというたら、そうでもないよね、今見よって。今の中3がまさに上中へ来た1期生。上中から久礼中に行った。その妹とか弟とかおるところは、もっとそういうのが分かる。もう絶対変えようがないのは、下級生がいないということは変えようがないので、そこをどう捉まえるか。

今、下村委員が言われたように、やっぱり不安が、絶対子供にある。けれども、すぐに打ち解けあえるので、上小自体にいろんな問題も過去いっぱい、森下委員ご存じだと思いますが、合併後、上小でいろんな問題も随分起きたので、どこでもそうやけれども、ええところも悪いところもあるので、子供たちについては今の意見も参考に、教育長、もうちょっと交流の時間を、カリキュラムの関係でどうなるのか分からんけれども、持てるところは持ってみてもええんやないかなと。

あと、修学旅行は一緒になるんでしょう。だから、その修学旅行の学年になったら、それは問題ないというところ。やっぱり低学年とも違う。けれども、8年度いうたら、4年生からというのと、4、5、6しかおらんので、それは今は3年生におけるけれども、それが4年生になったら、また全然違うと思うし。割と案ずるより産むがやすしになるかもしれないと思います。

○岡村教育長

少人数って保育園からずっと一緒なので、序列からはなかなか抜け出せないんですね。例えば、算数なんかはあの子が1番、この子が2番、僕はよく頑張っても3番か4番やみたいな、なかなかその序列から抜け出しにくいんやけれども、足が速いとか遅いとかも。でも、多いところに行くと、努力したら若干上がったり、上げる下がる。そこはちょっと多いところの努力のしがいと、それは出てくる。

○山崎総務課長

ありがとうございます。

○高橋委員

構わんですか。私、それこそ町長が言うたように北小学校の関係、ちょうどうちの子供たちがまさにその中で学校に通いよった頃ですけど、保育園が一緒に、小学校で北小学校と大野見小学校に分かれて、忘れもせん、その北小学校の行く子供たちが、北小学校に行くということじゃないがですよ。一緒におれんなるということが寂しくて、涙こぼしながら話をしちよったんですよ。決して北小学校へ行くということじゃなくて、子供たちが別れることがつらいということをお話をしておりました。

そのときも、やっぱりいろんな意見が出ました。特に地域の方々が、学校がないなるということはこの上ない寂しいことなので、それはもういろ

んな声も出ましたので、最終的にはやっぱり保護者さんが、あと、子供たちもそうですけれども、そこに通うのは子供たちです。そこで支えていくのは当然、私たち保護者ということを前面に出して、地域の方々も今になってというか、だいぶたってから、やっぱりあのときはああやって言うたけれども、やっぱり子供たちのほうが優先やったなということをよく聞きました。

今、上ノ加江小とかの関係でいろいろ意見が出る中でも、やっぱりいろんな方が、教育委員会が方針を決定したほうがスムーズに進むと思うなどというのを、やっぱりそこで暮らし、一緒に地域の方々と生活しゆう中で、うちは久礼に通わそうということはなかなか大々的に言えんもんながですよ。やっぱりそういうところはある程度方針を示しちゃってというところで、ちょっと言うてくる人らもおるろうと思うがですけれども、もうそれは仕方ないこと、私らでも、常に何かやろうと思ったら、常に反対される職員というか、方たちもおるがですけれども、そこはやっぱり我々は方針を示しちゃったほうがいいかなとは思いますが。もう大体、けれども、保護者の方々ももう仕方ないという認識でおると思うんですよ。どちらとも決めていない、迷っている、これがまさに今のところです。この方々をどういうふうに持っていかかというところが重要じゃないかなと思います。

○山崎総務課長 いいですか、今の。貴代先生は。

○濱田委員 私は保育園のだけしかないがですけれども、久礼地区で統合したときに、こどもの園もフタナ保育所も反対でした。久礼と3園が統合やったのでね。けれども、統合した当初、本当に大人数で、もう180人近い人数で、もう毎日が戦争みたいな日々でしたけれども、やっぱり小さいところから来た子供、保護者にやっぱり配慮、言葉がけをしていかんといかんというふうな話合いもしながら、そうしたら、しばらくたったら、フタナの保護者が、先生、すごく心配しよったけれども、来てよかったいうて言うてくれたがです。やっぱり本当に家庭的な保育所で、少人数で本当によく見てもろうたけれども、やっぱり子供にとったら、来たほうがよかったと私は思うというふうな保護者の話を聞きました。

だから、心配してもやっぱり統合して、子供が慣れるまでは親も子供も不安はあるけれども、やっぱり子供は結構早うに慣れるがです。だから、案ずるよりも産むがやすしやないけれども、いいんじゃないかなとは思いますがね。しばらくはちょっと大変かも分かん。

○山崎総務課長 ありがとうございます。

町長、何か、お二人の言葉を受けて。

○池田町長 僕は小学校6年間ずっと複式やったんですよ、南小学校で。それで、もう本当に大勢の中に入っていきるのが怖い、内気で無口な子だったんですが。

○山崎総務課長 よかった、笑ってもらえて。

○池田町長 大野見第一中学校になって、また高校行ったら360人の大所帯で、いろんな人にもまれる中で、だんだん口もきけるようになってきて、そんなことです。子供はどんどん成長すると思うので、やっぱりいろんな経験を積んでもらったほうがいいと思うんです。やっぱりあまりにも少のうて、大人がそれに関与し過ぎたら、本当に過保護に育ってしまって、成人をしてからが大変になると思うんです。だから、よく五月病とか言うけれども、今はもう4月にはやもう、跡をとるという話もよく聞きますが、やっぱりある程度切磋琢磨して、子供の中でけんかをしたり、仲直りをしたり、そういう経験が長じてやっぱり生きていくんではないかなというふうに、自分の経験からそんなことを思うんです。

○山崎総務課長 ありがとうございます。

この議題については、よろしいでしょうか。どちらにせよ、丁寧な説明が必要だということは意見の集約できたと思いますので、それについては教育委員会ははじめ、そのように取り組んでいきたいと思います。

続きまして、その他、何かございませんでしょうか。

○濱田委員 すみません、私、本当に途中で教育委員代わってもらったということで、大変教育長はじめ、ご心配かけたと思いますけれども、実は三、四年前からちょっと温故知新やないですけども、自分が仕事しゆうときはすごく古いことをずっと続けていくことと、それから、新しいことを入れていかんといかんというふうに考えてきましたけれども、自分の身を振り返ってみたら、AIが教育へ入ってきて、本当にそれもどんどん進んでいって、自分が横文字、AIの横文字が分からんというようなことがすごいどんどん増えてきまして、三、四年前から、やっぱり若い人に代わらないかん。このお母ちゃんと同級ですので、もう娘から聞く言葉が本当にああ、すごいと思いながら話に聞く中で、三、四年前からもう辞めさせてもらいたいと多田次長にずっと言うてきました。

それで、今度2年前にあれするとき、どうしても先生、おらんきと。やけど、4年は無理やき、でも、何とかして探して、もう4年は絶対無理みたいに、本当に迷惑かけながら会へ行ったり、ずっとしてきたので、本当に途中で申し訳ないとは思いますが。迷惑かけたと思います。教育長はじめ

皆さんに迷惑かけたと思いますけれども、本当にいろいろ教育委員する中で、保小中の連携もずっとありましたけれども、やっぱり教育委員とまた立場が違って、いろいろ学んだことも大きかったと思います。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

○山崎総務課長 ありがとうございます。長きにわたりとしか言えないですけども、僕がお礼言うがも変な感じですが、ありがとうございました。

ほかに何かございませんでしょうか。

(発言する者なし)

○山崎総務課長 ないようでしたら、町長、閉会に当たりまして挨拶いただけますでしょうか。

(池田町長 閉会の挨拶)

○山崎総務課長 以上をもちまして、総合教育会議のほうを終了したいと思います。本日はどうもありがとうございました。